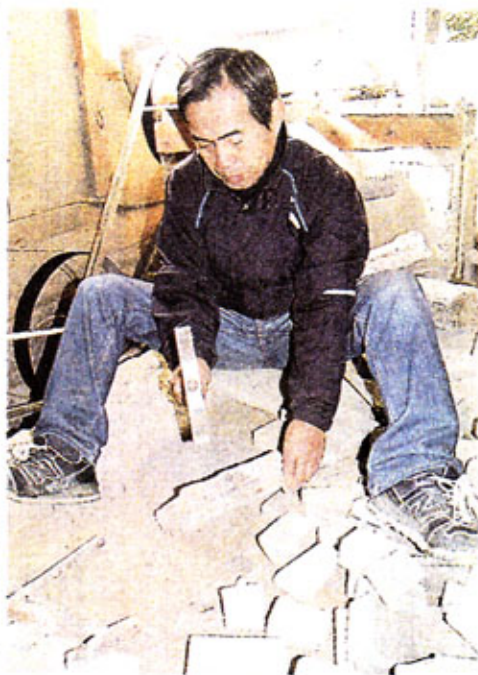


丹波

天然砥石 土橋 要造さん (亀岡市)

山から運び出した岩石を砕いて、規格サイズに加工する土橋さん(亀岡市東本梅町)



のみやかな、包丁な・直売「砥取家」(同町) 部町)の監督業との二足どきまざまな刃物の切れ味の長男に生まれた。大学のわり。忙しい中、味を良くし、メンテナンス卒業後、洋紙代理店で4集中心力を高めて本業の間に欠かせない砥石。中年間勤務したが「幼いころから父や祖父の背中をみるから父や祖父の背中をみるから父や祖父の背中をみるから父や祖父の背中をみるから」 「時間を忘れて夜遅くまで作業する」 ようになった。

砥石づくりの作業工程

亀岡市東本梅町の土橋要造さん(60)だ。「刃物採掘作業など肉体力労働を扱う職人、日本の研ぎ文化を下支えできれば」と控えめに語る。

1877(明治10)年創業の天然砥石採掘加工

丹波びじくる

もの・わざ・ひと

滑らかな研ぎ味を追求

は大きく分けて二つ。まず、市内の山から岩石を掘り、運び出す。「一言で言えば簡単なが、良質の砥石が採れるいい山を見つけるのが最初のヤマ。そして、どこを掘れば石が出るか地層の流れを読む目利きが必要」次に、持ち帰った石を加工する。天然砥石は硬度によって「荒砥」「中砥」「仕上げ砥」に分かれ、砥取家では細かく約30種類を扱う。加工作業では、昔ながらの機械を使って各種の規格に切断、凸凹な表面を磨いて仕上げている。

出来上がった天然砥石は、粒子が均一で滑らかな研ぎ味が特徴。研磨すれば切れ味は格段に良くなり、タマネギを切っても目に染みないという。



約30種類ある天然砥石。刃物の用途によって使い分ける

とはいえ、後継者不足や人工的な人造砥石に押され、需要は激減。それでも「千人に一人、一万人に一人が喜んでくれたらうれしい。いい物を大事にしてくれる人の顔を思い浮かべてつくっています」と目尻を下げた。(堀内陽平)

葬儀式場 24時間 電話受付
三星社 各セレモニーホール

- 三星社セレモニーホール 舞鶴市宇境谷156 ☎(0773)78-3232
- 三星社ゆめ川ホール 舞鶴市宇志高112-1 ☎(0773)83-9000
- セレモニー三星社ホール 宮津市宇喜多2259-1 ☎(0772)25-1550